

鈴鹿保健所における 薬局DOTSの取組みについて



鈴鹿保健福祉事務所（鈴鹿保健所）

○伊東 抄代子 山川 秀美 三木 恵弘 坂井 温子

1. 鈴鹿保健所管内の概要

鈴鹿保健所は、三重県の北中部に位置し、管内（鈴鹿市・亀山市）の人口は約24万9千人で、県人口の13.6%を占める。高齢化率は19.1%と全国、県平均より低く、生産年齢人口や外国人の割合は高く、流出入も多い。また、結核新登録者数は年間30人前後で推移し、罹患率は13前後と低い。平成22年度の新登録者を年齢別にみると、80歳以上が45.7%、70歳以上は62.8%と、全国平均に比べ高齢化率が低いにもかかわらず、高齢者の結核患者の割合が高い地域である。

2. 「薬局DOTS」の気づき

薬局DOTSが自然に始まっていった事例を紹介する。A氏は67歳の男性で、平成21年9月上旬に結核性胸膜炎と診断され外来治療となったため、保健所では月1回の訪問や来所による地域DOTSを開始した。11月にA氏が保健所へ来所した際、服薬手帳には既に印鑑が押されていた（図）。これについて本人に確認すると「S薬局で薬を貰う時に、空袋を持って行き、薬剤師さんに押印してもらいました」とのことであった。その後もS薬局薬剤師による空袋の確認・押印が継続し、保健所では押印済みの服薬手帳の確認や、電話連絡にて服薬継続の確認を行うようになった。そこで、これは薬剤師による服薬確認、即ち「薬局DOTS」では?と気づいた。

3. 取組状況の確認

S薬局のA氏への関わりの詳細等を知りたいと考え、薬事業務でつながりがある保健所衛生指導課を通して、S薬局へ連絡したところ、話が順調に進んでいった。A氏の服薬終了前の平成22年5月にS薬局への同行訪問が実現し、現場にて状況を確認することができた。当時はA氏のみを実施しており、S薬局の中でも、DOTSについての認知度は十分ではない、ということが分かった。おそらく、他薬局でも認知度は低いであろうと思われた。

4. 薬局DOTSの拡大に向けて

そこで、薬局薬剤師の方々に対して、DOTSに関する研修会を開催することにした。幸い、S薬局所属の薬剤師会理事の方が、鈴鹿地区薬剤師会の勉強会の場を活用できるよう便宜を図ってくださった。7月27日に実施した研修会には36名の会員の参加があり、結核の基礎知識やDOTSの概念、結核服薬手帳（のんびり）やA氏の事例について紹介し、薬局DOTSへの協力をお願いした。

研修会受講後のアンケート調査の結果、DOTSに対する理解が得られ、関心度も高いことがわかり、自由意見でも前向きな意見が多くみられた。中には、保健所と薬局の連携をより深めていく必要性についての提案もあった（表）。

この研修会によって、薬局DOTS

への手応えを感じ、薬剤師会理事の了解のもと、より認識を深めていただくために、結核指定医療機関登録薬局に対して結核服薬手帳と患者用リーフレットの配布を行った。

現状では、薬局DOTSのきっかけとなったS薬局のみでの実施となっているが、薬局に対してDOTS委託料や手数料等の支払いは行っておらず、状況は電話連絡にて保健所から患者、薬局の双方に確認を行っている。この点について、薬局からは、DOTSは薬剤師の本来の役割であり、薬局の業務の中にDOTSに関する業務や費用は含まれているものと考えているとの意見をいただいている。

また、薬局DOTSの実施者数は、平成21年度は1名、平成22年度は2名、平成23年度（11月末日現在）は5名と徐々に増加している。

5. まとめ

一つの事例をきっかけに薬局DOTSの導入の可能性に気づき、衛生指導課と連携を図ることで、薬局への連絡が円滑に行え、薬剤師会とのつながりもできた。また、薬剤師の方にとっても、薬剤師の専門的知識を生かすことができるものと捉えていただくことができた。

薬局DOTSは、患者本人の理解が得られた場合は誰でも対象になると考えている。特に、高齢者では結核の他、合併症があり数種類の薬を服用している場合も多く、抗結核薬との相互作用や副作用の確認が必要であり、薬剤師が支援者になるメリットは大きい。また、寝たきり等で在宅療養中の人でも、薬剤師の訪問事業を活用することで、薬局DOTSの拡大が期待できる。

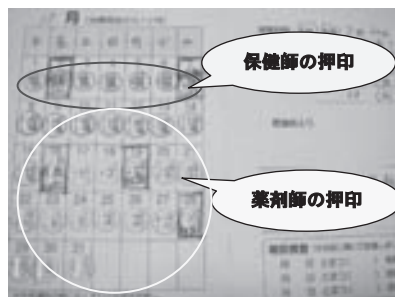
今後も、薬剤師会との協働のもと、薬局DOTSの実施に協力いただける薬局を増やし、体制を整えていきたいと考えている。

最後に、「人が人となつがって人を治す」という意識をもち、患者が確実に服薬できるように支援するという目標に向かい、患者の生活スタイルに合わせた支援の提供ができるよう多くの職種で連携をもち、地域DOTSを推進していきたい。

参考文献

財団法人結核予防会「保健師・看護師の結核展望」通巻94号（Vol.47 No 2）p37-45

図



表

研修会アンケート結果（35名回収）

DOTSの理解度	理解できた	21名
	概ね理解できた	14名
DOTSへの関心度	関心もてた	20名
	概ね関心もてた	15名

<自由意見>

- 薬局も協力させていただきます
- 積極的に薬局DOTSを利用して服薬指導をおこなっていききたい
- 薬剤師会として十分できると確信できた
- 保健所と地域薬局の連携をきちんととっていき
- 結核支援のシステムの中へ薬局の活用を